

日中7月例会レポート

特別講演

『台湾経済と台日の経済産業連携』

(報告者) 台北駐大阪経済文化弁事処 何 坤松 経済組組長



日 時：2016年7月5日 場所：大江ビル 参加者数：45名

いろいろなメディアで報道される台湾、テレビ番組やガイドブックで紹介される台湾、観光旅行で私が見た台湾、ビジネスを通じてあなたが知った台湾。折しも政権交代がなされたばかりの台湾、日中関係の将来にも深くかかわる台湾を深く知りたい。

日中7月例会では台北駐大阪経済文化弁事処（総領事館に相当）の何坤松（カ・コンショウ）経済組組長を講師にお招きしました。今年1月に民進党が圧勝して8年ぶりの政権交代が実現、初の女性総統である蔡英文氏が正式に就任した台湾の現状と将来を語っていただきました。

■ 台日経済の深い結びつき

台湾と日本は国交がありません。それにもかかわらず両者の関係は極めて良好であり、台湾の人はとても親日的です。

台湾にとって日本は最大の輸入国であり、かつ4番目の輸出先。中国に次いで2番目の貿易相手国になっています。近年は台湾から日本への投資が増加しており、その象徴が鴻海（ホンハイ）精密工業によるシャープの買収。また台湾への投資を呼び込むための政策も次々に打ち出されています。それはこれまで台湾の経済成長をけん引してきたOEM（相手先ブランドによる製造）中心ではやっていけないのではないかと、という懸念が背景に。そして技術力・ブランド力を持つ日本企業との連携を強めて新興市場へ進出したいという狙いがあります。2012年には日本の経済産業省と台湾経済部が「産業協力架け橋プロジェクト」を締結しました。それは相互互惠の原則のもとに、中小企業や地方の協力関係を強化することも謳っています。その分野は風力・太陽光発電、電気自動車、LED照明、デジタル・コンテンツ、バイオ医薬など多岐にわたっています。

■ 新政権における中台関係は？

「一つの中国」という中国大陸の考えを受け入れない台湾ですが、経済は別。台湾企業は中国大陸全土に網の目のように細かく進出しており、中国の輸出企業トップ10社中7社は台湾系企業です。政治関係はどうであれ中国に深く入り込み、世界中に、そして市場としての中国を相手にモノを販売してい

ます。まさに「政治と経済は別」を地で行くのが台湾です。政治的には独立志向の民進党に政権交代しましたが、経済関係は果たして……

■ インバウンドの中核・台湾人

日台関係に話を戻せば観光交流はさらに活発で、特に台湾からの訪日観光者数が大きく伸びています。2015年に訪日した台湾人は380万人（前年比28%増）。いわゆる「インバウンド市場」の中核となっています。これには2011年に締結されたオープンスカイ協定が効いており、格安航空会社（LCC）の存在も後押ししています。現在台湾からは毎週390以上の日本便が飛び、そのうち関西国際空港（KIX）には週113便も来ています。観光とビジネスの交流はこれほど進んでいるのです。

■ 台湾人の温かさ

この日の例会を聴いて私の記憶が蘇りました……。2011年3月11日、東日本大震災のあったその日、私は台北にいました。街が津波に飲み込まれる場面がホテルのロビーにある大画面テレビに何度も映し出されました。私が日本人とわかった瞬間、心配と励ましの言葉をかけてくださった台湾の人たち。いかに自分の知っている日本人がいい人で、日本が素晴らしい国かと自慢のように言ってくれ「だから大丈夫!」「きっとよくなる!」と励ましてくれました。そんな台湾人の温かさを思い出した例会でした。

文：(株)リバーフィールド 山岡かすみ